

# 愛と裏切りのドラマ 技量のを尽くす歌唱

第23回みつなかオペラ

「清教徒」

## オペラ評

ベッリーニ「ベルカン  
ト・オペラ」第2弾で、  
イギリスの清教徒と王党  
派が対立した時代が背景

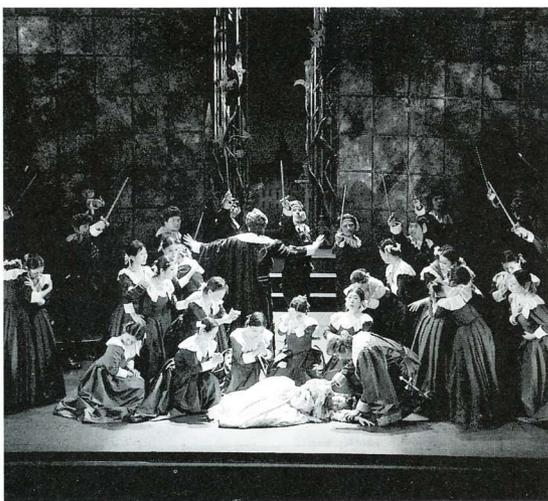
の愛と裏切りのドラマで  
ある。清教徒の城主ヴァ  
ルトン（松森治）は娘エ  
ルヴィーラ（老田裕子）

が愛する王党派の騎士ア  
ルトゥーラ（中川正実）

との結婚を叔父ジョルジ  
ヨ（渡邊寛智）の助言で  
許す。愛の成就を喜び二  
人だが、当のアルトゥー  
ラは幽閉されていた前王  
の妃エンリケッタ（西村  
薫）の処刑が近いことを  
知り、拳式直前に逃亡を  
助ける。恋敵のリッカル  
ド（西尾岳史）が気づく  
が、エルヴィーラでない

ことを知って黙認、友人  
のブルーノ（清原邦仁）  
がかえ添えて登場した  
り、序幕の筋は錯綜して  
騒がしい場面が続くが、  
花婿の逃亡で花嫁は錯乱  
して幕が降りる。

第二幕は「狂乱の場」。  
老田の歌唱が聴きどころ



© 仲野達也

で「優しい声がよくない  
た」が恋人の裏切りを  
切々と嘆く。技量の粋を  
尽くす歌唱にオケ伴も同  
調、愛の死を表現して出  
色だった。状況に感じた  
ジョルジヨとリッカルド  
は王党派との対決を誓っ  
て男同士で二重唱「ラッ  
パの響き」になるが、こ  
れが勇壮で上出来、聴き応  
えのある一幕にまとまった。  
終幕はアルトゥーラが  
エルヴィーラを求めて帰  
郷し再会を果たすが、発

見されて死刑を宣告され  
る。自己の潔白と愛の真  
実を説くアルトゥーラの  
熱い歌唱が呼びもので、  
期待の高音には無理もあ  
ったが、若々しい熱唱は  
それなりに魅力的だっ  
た。王党派壊滅の知らせ  
でアルトゥーラは恩赦、  
めでたく大団円を迎える  
幕切れには時代を感じる。  
岩城拓也指揮の合唱団  
は歌唱も集団の動きも適  
切で、コロスの役割を果  
たして印象的。またマス  
トロマッティの装置が秀  
逸で、高い角柱状の壁を  
場面転換で組み替えて見  
せ場を作っていた。牧村  
邦彦指揮のザ・カレッジ・  
オペラハウス管は序幕は  
鳴らしすぎだったが、ベ  
ッリーニのスコアをよく  
読んで、井原広樹の歌唱  
中心の演出を助けてい  
た。場面のイメージをタ  
ブローで印象づける手法  
も巧みだった。（9月21  
日、みつなかホール）

（嶋原真一）